

ウラジオストク

8/27～12/23 の4ヶ月弱ウラジオストク国際経済サービス大学にて留學生活を送りました。

長期にわたっての海外での生活はもちろん、日本をでることすら初めてだった私は、生活が想像できず不安も多くありました。

ですが、とても充実した日々を過ごせました。言語はもちろんですがコミュニケーションの楽しさや難しさ共同生活の大変さに触れることで心身共に成長できたと思います。

この報告書ではほんの一部ではありますが留學生活がどんなものだったのか書いていき



いとします。

はじめに

今回の派遣留學の参加者は18人という破格に多い人数でした。

そんな中私は代表を努めました。私たちの学年はロシア語選択者が多くクラスも2クラスありました。なので、留學に行くメンバーが決まった時、顔合わせの時には

ほとんどのメンバーが話したことがない人たちで、そんな人たちと4ヶ月生活できるのか不安を感じたことを覚えています。

また今回私たちが行ったのは、前年度まで先輩たちが行っていた極東連邦大学ではなく、日本人の学生の受け入れは初めてのウラジオストク国際経済サービス大学でした。

なので先輩にアドバイスをもらうのにも限界があり、いってからは模索の毎日でした。

授業

授業は音楽・美術・地理・歴史は私たち日本人だけ全員で受けて文法・日常会話などは6人ずつ分かれて他の国の人たちと一緒にクラスごとにうけました。

私がいたクラスには中国人・フィリピン人・韓国人がいました。

はじめのうちは共通語がロシア語という状態に緊張したり授業中の先生のちょっとした指示が聴き取れなかったり他の国の人たちと仲良くなれるのか怖がってばかりでした。

ですが授業ではお互いに質問しあったり相談して会話文を作ったりしてロシア語での会話に少しずつ慣れていきました。

最後の方は授業中に他の国の人たちと冗談を言い合えるまでになりました。

授業は基本的なところからしっかりとやってくれて発言する機会も多くありました。

日本で学ぶときはどうしても『話す』機会は少なくなってしまうので、その点が最高に良かった点だと思います。毎日宿題が出され、作文の宿題が多く出たときは必死にやりましたが、留学先での方が格段に長い文章を話し、書き、読むことができたのですごく力になったと思います。



寮生活

4ヶ月間私たちは学校の敷地内の寮で生活しました。日本では実家暮らしなのであまり自炊の機会もないし、家事も少し手伝う程度しかなかったので自分ですべてやらなければいけない環境は良い経験になりました。共同で使う調理器具、キッチン、洗濯機などがあり、管理人のおばさんや同じ階に住んでいる私たち以外の方々とのコミュニケーションはロシア語上達の素晴らしい機会でした。

日常会話の授業で習った依頼の仕方を管理人の方に使ってみたり、買い出しに行った先のスーパーマーケットの店員さんに使ってみたりと新しく入れた知識をすぐ使える状況だったのはすごく良かったと思います。

寮の中だけでなく買物に行くときも日本は勝手の違う場所で生活できたことで授業以外で『ロシア』を学べたと思います。

街で人と話して気づいたこと、教科書では習わない言い回しなどどんどん自分の中に増えていく感覚がすごく楽しかったです。

友達・先生との出会い

ウラジオストクで生活して当然ですが新しい出会いがたくさんありました。

私たちの身の回りのことを手伝ってくれた大学の国際部の方々には海外が初めての人も多かった私たちはビザの更新や荷物のやり取りなどすごくお世話になりました。

私は代表として日本からの荷物についての連絡などを受けていました。なのでメッセージのやり取りが多かったのですが、間違えた場所に届いていたりして私たち側の状況を細かく伝えることが難しかったり、また個人的に鳥取県米子市への行き方をきかれたりしたと

きには辞書を片手に必死に伝えたりしました。これで私は結構メールになれることができましたと思います。

先生方はどの先生も優しく親身になって教えてくれました。

いったばかりのころは本当に少しのことも聴き取れず授業の進みはすごくおそくなることもありました。ロシア語が分からない人たちにロシア語でロシア語を教えるのは本当にすごいことだと思います。簡単に言い換えたり、伝えることを諦めずにいてくれたりする先生方と出会えたことはとても恵まれたことだったと思います。

クラスメイトとは授業で話すことがほとんどでしたが、フィリピン人の友達の家に遊びに行ったこともありました。クラスメイトの人たちは私たちにすごく興味をもって色々質問してくれたり、遊びに誘ってくれたりしてすごくいい関係を築いてくれました。

クラスメイト以外でも学校の行事で言った遠足などで知り合った中国人や韓国人、知り合う機会を作ってもらった時に知り合ったロシア人とベトナム人、寮の同じ階に住んでいた日本語教師をしていらっしゃる日本人の方、またその先生の紹介で知り合った日本語を勉強をしているロシア人の生徒さんたちなど、書ききれないほど様々なかたと出会い、話しました。

ロシア語を学ぶという点でたくさんの人たちと話すことはとても良かったと思います。

でもそれ以上に人と出会って話すことは勉強を楽しむために絶対必要なことだと思います。

日本にいてロシア語を学ぶ際に出会う人はそれほど数は多くありません。

留学先では出会う人出会う人がみんなが先生と感じるほどにひとつひとつの出会いが有意義なものだったと思います。





文化

初めての海外での生活は何もかもが異文化で驚くことも多くありました。

ロシア以外の国にいたりウラジオストクの人たち以外の外国の方と関わりを持ったことはあまりないので比べたわけではないですが、ウラジオストクの人たちは人柄や考え方は日本人とそう大きくは変わらないような気がしました。

気の遣いやテンションはそんなにギャップを感じることはなかったようにおもいます。

ただ町並みや建物、伝統的な模様などは色彩がはっきりしたものを好んだり、建物は古かったりとヨーロッパの雰囲気があるところもたくさんありました。

長期休みはなかったので遠出はしなかったのですが、歴史で習うような建物がまだ残っていたり、近くにあった教会などが日本にはない雰囲気があり新鮮でした。

音楽は古いうたを覚えて歌う機会がありましたがなんとなく耳なじみのいいものが多く、やはり感性はアジア圏で通ずるものがあるのだと思いました。

ただ、踊りの文化は日本の伝統のものとは違い、大人数で円になってまわったり、楽器をたくさん使ったり、とんだり跳ねたりする陽気なものが多くありました。

食事に関しては、乳製品が多いと感じました。スーパーマーケットでは大きなマヨネーズの瓶やバケツのようなものが置いてあったり、たくさんの種類のヨーグルト、見慣れないスメタナなどがおいてありました。料理は日本料理のように彩はあまり気にしていないように思いました。どれもそんなに癖がなくて食べ物にはあまり困りませんでした。



思い出

全てが思い出なのですが、とくに記憶に残っているものを挙げていきます。

音楽の先生に連れられてよく街で行われている伝統の踊りやうたの発表を見に行きました。きれいな衣装をきた子供たちがくるくると回っておどっている様子はとても素敵でした。

私たちが混ざって踊ったりしたことも何度かありました。踊っているときは本当に楽しいしそこで関われる人たちも素敵な方々ばかり。なのですが、いつもそのような場に行くときは連絡が急かもしくはないかでいつも始まりの時はみんなポカーンとしていることがおかつたです…。

まざるといえば 9/28 は寅の日というイベントがあり、中心部が歩行者天国になりトラの仮装をした人たちがパレードを行うものなのです。そのパレードに「私たちまざるよ！」と連絡が先生から来ました。当日のお昼に…。

数人で出かけていたわたしは出先なのでみんなに連絡も出来ず時間も間に合わないという状態になりその日初めてロシア語で電話をしました。

伝えることはたくさんあったのですが「私たち遅れます！」としか伝えられませんでした。その後連絡をしても先生は電話に出ず、私たちは出かけていたメンバーだけでパレードについていきました。その日はロシア人の知り合った子たちとの約束もあり、ロシア語しかない状態で頑張る会話はすごく体力を使いました。このような感じでクタクタになったこの日はなんと私の誕生日だったのです。一生忘れられない誕生日なと思います。(笑)

行事は他にもたくさんあって、留学生100人以上で行った遠足、音楽で習った歌を発表する機会が何回かあったり、個人的にもいろんなお店で買い物をしたり、ご飯を食べたり、映画を見たり、遠出こそしませんでした。休みの日には出かけてカフェを探したりアクティビティに楽しく過ごせたとおもいます。



さいごに

ここまで様々なことを書いてきましたがまだまだ書ききれません。

最初は少し長いと感じていた4ヶ月も過ぎてみれば本当にあっという間でした。

この留学で得たものは本当に数えきれないほどあります。

特に感じているのは自分を見つめなおす機会になったということです。

日本で、大学で生活しているときは語学だけに集中することは難しいですが、留学では勉強に集中できます。そして時間の使い方が本当に自分次第なので自分の好きなことや、やらなければいけないことに時間をさけたり、また仲間と生活することで自分の考え方を認識したり、外国語で話すことでまず自分の意見をしっかりと持たないとつたえられなかったりとしっかりと自身を考える時間ができたと思います。

私は今回の留学で改めて、自分が人と関わるのが好きなこと、音楽や絵など感覚的なものが好きなこと、話すことや言葉・言語が好きなことがわかりました。

将来の夢も出来ました。

そんな機会を与えてくれた親や学校の方先生方そして何より一緒にロシアでの時間を過ごしたメンバーにありがとうを言いたいです。

これからも語学を頑張ろうと思います。

ありがとうございました！

